

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900039	事業の開始年月日	平成20年8月1日	
		指定年月日	平成20年8月1日	
法人名	社会福祉法人 興寿会			
事業所名	グループホーム 興寿苑			
所在地	(239-0802) 神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番5号			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果 市町村受理日	(市町村受理後に記入)	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	(評価機関で記入します。)
----------	---------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方々との交流を大切に考えております。近隣からのご入居者もあり、ご家族もよく面会にお越し下さいます。</p> <p>地元中学校の福祉実習の受け入れや、地域の方々との交流を通じ、地域住民の一員として、福祉、医療、保健等の関係機関と連携を図り、住み慣れた町で、個人の尊厳に配慮しながらその能力に応じてできる限り自立した日常生活が安心して送れるよう支援しています。</p> <p>「自分が入りたいと思うホームにしよう」を目標に掲げ、ご入居者が「ここに来て良かった」と思って頂けるよう努めています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月19日	評価機関 評価決定日	平成23年6月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の環境と立地】 この事業所は京浜急行京急大津駅または馬堀海岸駅から、徒歩7～8分の平坦な道路沿いに所在する。海岸の幹線道路から少し入った、周囲は閑静な住宅地である。駅から近く駐車場もあり、家族が訪ねやすい立地である。</p> <p>【理念に基づく生活支援】 「自分が入りたいと思うホームにしよう」をスローガンにして、8か条の基本理念を要約して表現している。個人の尊厳に配慮しながら、明るく家庭的な雰囲気の中で、自立した生活が送れるように支援している。</p> <p>【希望に沿った外出支援】 利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて、天気の良い日には車いすを使用している方も一緒に、近所の公園や海岸に散歩に行ったり、買物に出かけている。外出を好まない方は、庭の家庭菜園やベランダでの外気浴に誘っている。</p> <p>【四季の行事】 花見や紅葉狩り、三浦の畑でのスイカの収穫、大根掘りなどの外出行事の他に、夏祭り、敬老会、クリスマスなどには家族も参加してもらい、利用者、家族がともに楽しめるよう工夫している。</p> <p>【医療連携と重度化対応】 看護師を配置し医療機関と連携して、利用者の健康管理に配慮している。重度化やターミナルケアの対応方針を定め、利用者、家族に説明している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1～14	1～7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 1階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板に理念を掲げ、共有しています。「その人らしい生活」を送って頂いているか、毎月の会議時に確認し、利用者の思いや意向に沿った支援の実現に努めている。	利用者の権利と職員の行動指針を定めた8か条の基本理念を「自分が入りたいと思うホームにしよう」と要約して表現し、玄関に掲示している。職員の入職時に理念を説明し、会議で確認している。利用者が喜ぶように日々のケアに活かしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わしたり、町内会に加入し、回覧や町内会長から地域の情報を得ている。当ホームでの夏まつり・敬老会には近隣に声を掛け、参加して頂いている。	町内会に加入し、利用者も防災訓練に参加している。ホームの夏祭りや敬老会に近隣の方々も招待し、利用者と交流している。近隣の中学校の生徒が福祉実習で来訪する。利用者は、茶道、音楽、体操、ステンシルのボランティアを楽しみにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の一員となるには、認知症の理解を得ることが急務と考えている。町内会の集まりで認知症に関する講座を設けることを、現在町内会長・民生委員と調整中。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の事業者運営推進会議を通じ、家族・民生委員・町内会長及び市、地域包括支援センターとの意見交換や要望を頂き、サービス向上に努めている。	昨年度は運営推進会議を6回実施した。家族、町内会副会長、民生委員、市職員が参加している。事業所からの活動報告のほか、地域防災訓練の情報交換、地域交流活性化などについて、意見交換を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等ある場合には、直接市役所に向き応じて頂いている。また市の担当部署主催の研修会に参加するなど、意見交換を行い、良好な協力関係を築いている。	市の担当者へは、事故報告やプリンクラー設置、人員配置基準・入居基準などの相談に行き、併せて事業所の近況を伝えている。市グループホーム事業所連絡協議会で情報交換し、研修等に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>当ホームの「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」に基づき、職員間で具体的な内容を周知・共有しケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」に身体拘束をしない方針を制定している。玄関は防犯上常時施錠をし、2階の階段には安全のため木の柵を設けている。家族に説明し了解を得ている。職員間で見守り、声かけし連携を図っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修には、必ず参加し、参加資料を職員間で供覧し意識を持って虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>一部の職員は研修等参加により理解しているが、成年後見人制度・地域福祉権利擁護事業等、十分な周知、理解は図れてなく活用できていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除時には、利用者家族が安心して頂ける様、明確に説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時や、事業者運営推進会議時に、要望・意見をお聞きし、フロア会議などで話し合い、運営に反映している。</p>	<p>家族の意見は面会時に聞くようにしている。意見は毎月の会議で話し合い、改善につなげている。「外出をふやして」との意見や通院介助の依頼などがある。意見箱はあるが、投函はされていない。</p>	<p>家族の意見、要望は家族の来訪時に聞くだけでなく、アンケートの実施や、多くの方々が集まる機会を設けて広く建設的な意見を聴取する等の工夫が望まれる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月1回のフロア会議にて職員の意見や提案を収集し、法人内の運営会議にて代表者へ報告し、法人全体で共有し意見や提案を反映している。	毎月のフロア会議で職員から意見、要望、提案を聞いている。両面コピーにする、節水コマをつける、安価な洗剤にするなどの改善事例がある。内容によっては法人内の運営会議で検討する。個人面談は年1回行い、職員の悩みなども聞いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況を把握する為に、運営者は年2回の自己考課表の提出を義務付け、管理者が適切に評価し、適材適所の配置を心掛けている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会や、その他外部研修にも積極的に参加している。また、管理者が中心となりOJTを主体に日常的に指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括が開催している地区ネットワーク会議にて、情報交換や勉強会を行っている。また、横須賀市グループホーム連絡協議会主催の交換研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に話を良く聴くことを大切にし、受容するように心掛けている。本人の不安や思いを受け止め、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホーム見学や事前面接を行い、困りごとなどの傾聴を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応出来るものは即実行し、即実行不可能なものは、関係機関と連携し対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。貴重な意見を生活環境の改善に役立てている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告・相談を常に行うことにより、共に利用者へ様々な視点から支援できるよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者の生活歴等を十分把握した上で、面会時間や外出等の調整を行っている。	利用者の友人が訪ねて来ると、湯茶を接待し関係継続の支援をしている。なじみの美容院へ毛染めに行ったり、ラーメン屋やパン屋へ付き添って出かけたたりしている。墓参りの希望があった際には、職員と一緒に近郊の墓所まで付き添い、支援をした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が孤立しないよう、職員が間に入り、利用者同士の架け橋になれるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談を受け入れ、交流を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族から生活歴等を聞き取ると共に、日常会話や表情・態度から本人の意向を読み取るように心掛けている。	入居前に家族と一緒に自宅で面接を行い、生活状況、思いや希望を聞いている。日頃は日常生活の中で聞き取り、ケース記録や連絡ノートを使い職員間で共有している。意向の把握が困難な方は表情やパターンから読み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーからのケアプランや、利用前の本人、家族との事前面接をもとに、生活歴、暮らし方等、在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体、精神面の状況を集約し、職員間において現状を各種記録表にて多角的に把握し共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにおいて、様々な視点からの意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のカンファレンスで、職員全員が意見を出し合い、1回に2～3名の介護計画を作成する。家族に郵送し、意見をもらった場合には計画に反映させるようにしている。6ヶ月後または入院時、急変時にも見直しをしている。</p>	<p>介護計画は、原案作成後に確認するだけでなく、作成前にも家族や関係者と話し合いの上、気づきや意見・要望をより多く取り入れ、作成することを望みたい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護日誌、ケース記録等に記載し、記録と共に申し送りを行い情報を共有し実践に活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>常に利用者や家族の目線に立ち、外出・外泊、リフト付車を用いて支援している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の方々に、理美容や民謡・体操等のボランティアにお越し頂いている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者希望のかかりつけ医の継続を行い、個々の状態の把握に努めている。変化が診られる際には早期対応ができる体制を築いている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を受診する方は4名で、家族が通院介助をし、都合が悪い時は職員が付き添っている。その他の方は協力医をかかりつけ医としている。往診は内科が隔週、精神科は月1回、歯科、看護師は毎週となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員及び協力医等からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、協力医を通じ、また直接情報提供を行い、早期退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時及び終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有している。</p>	<p>重度化対応指針を定め、入居時に説明して同意書を申し受けている。過去にターミナルケアは1件の実績がある。医師、看護師と連携し、状況に応じて家族との話し合いを重ねる方針である。次の機会に備え、看護師による職員研修を準備している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。</p>	<p>避難訓練は年2回定期的に、1回は消防署の指導を受けて実施している。夜間を想定した訓練も行っている。民生委員が立ち会ったが、地域住民の参加、協力はこれからである。スプリンクラーは1月に設置済みである。非常用品は市内の法人本部に特別養護老人ホームと合同で備蓄している。</p>	<p>今後は事業所だけでなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施することが期待されます。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、採用時に接遇に関する研修を行っている。	言葉遣いや接遇態度は入職時に説明し、3ヶ月後の研修で確認している。トイレ誘導時には目立たないように、さりげなく声かけをしている。居室入室時はノックをし、声をかけて入るようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物に出かけたり入浴時間など、個々の生活リズムに沿った支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にやっている。	利用者はサラダの盛り付けや食器洗いなど、自分の出来ることを手伝っている。献立は利用者の希望も取り入れ、行事食にも反映している。職員も一緒に同じものを食べている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し、確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。事前に声かけてトイレに誘導し、座って自力で排泄することを促している。オムツからリハビリパンツへ更には布パンツへ戻った例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、下剤の使用については主治医相談のもと服薬介助を行なっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。	週に2~3回入浴できるようにしている。自立で毎日入る方も2名いる。夜に入る方もおり、希望に合わせて自由に楽しめるようにしている。入浴を嫌う方には上手に声かけし、タイミングを見て入ってもらう。季節に合わせて菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者の状況に応じて、適度な運動を取入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について共有し、把握に努めている。随時、身体面・精神面での変化等主治医との相談の上、実施している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者個々の生活歴の中で役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。一人ひとりのペースに合わせ、リフト車も活用している。</p>	<p>天気の良い日は近所の公園まで散歩に出かける。その際、車イスの方も一緒に行っている。買物は馬堀海岸駅まで歩いて行く。出たがらない方は庭での外気浴に誘うなどしている。車で花見や紅葉狩りに出かけたり、三浦の畑でスイカ収穫や大根堀りを楽しむこともある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的な金銭管理はホームにて行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている				
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。	リビングの窓が大きく明るい。テレビの前やソファでゆっくり寛ろいだり、カラオケを楽しんだりしている。五月人形や習字の作品を飾り季節感がある。菜園のある広い庭、ベランダ、枯山水の中庭など居心地よく過ごせる工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの談笑の場を確保している。また、屋外には喫煙場所も確保している。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。	居室にはクローゼット、洗面台、エアコンが備え付けてある。ベッド、整理タンス、テレビ、ソファや仏壇など馴染みの備品に囲まれ、周囲にカレンダー、習字の作品、写真、ぬいぐるみなどを置いて、落ち着ける場所となるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置し、利用者に適した環境整備を行っている。			